やすからずいひおどろき、あざみわらひあざけるものどももあり、

〔書言字考節用集八辭〕冷笑（ニガワラヒ）

〔源平盛衰記三〕殿下事會攝政殿〇藤原基房、中略、十四日〇嘉應二年十二月ニ太政大臣ニナラセ給フ、十七日ニハ御悅申アリ、此ハ明年御元服ノ加冠ノ料也、平家ノ一類、以外ニ苦咲テゾ見エケル、

〔書言字考節用集八辭〕呪韻（ソラソラヒ）廣韻、曲從也、瑞強笑也、喔咿（同）韻會　嚅呪（同）

〔名物六帖人事四性行笑噺〕乾笑（ソラワラヒ）能改齋漫錄、世言笑之不情者爲乾笑、按宋范曄謀逆就刑於市、妻來訣曰、身固不足塞罪、奈何枉殺子孫、曄乾笑而已、按乾笑始于此、　冷笑（ソラワラヒ）

〔伊呂波字類抄人事〕咳小兒咲（アキトフ）

〔和字正濫抄四〕咲顏　ゑがほ　俗、ゑみがほなり、

〔枕草子八〕あやしくてこはたそととへば、えみごゑになりて、いみじき事きこえん、〇下略

〔古事記上〕天宇受賣命、〇中略於天之石屋戸、伏汗氣此二字以音而蹈登杼呂許志、此五字以音爲神懸而掛出胸乳、裳緒忍垂於番登也、爾高天原動而、八百萬神共咲、於是天照大御神以爲怪、細開天石屋戸而、內告者、因吾隱坐而以爲天原自闇、亦葦原中國皆闇矣、何由以天宇受賣者爲樂、亦八百萬神諸咲、爾天宇受賣白言、益汝命而貴神坐故歡喜咲樂、

〔古事記傳八〕歡喜咲の三字を惠良岐（エラギ）とよみ、樂字を阿蘇夫（アソブ）と訓べし、〇略註惠良具（エラグ）とは咲榮樂（エミサカエタヌシ）むを云、續紀廿六、大嘗祭豐明の詔に、黑紀白紀能御酒乎、赤丹乃保仁多末倍惠良伎云々、又卅の詔にも、黑紀白紀乃御酒食（オホミキタマヘエラニソカヘマツルヲミルガタノトサ）倍惠良伎云々と見え、萬葉十九四十三丁に、豐宴見爲今日者（トヨノアカリミシセスケフハ）云々、千年保伎（チトセホギ）保伎吉（ホギトヨモシエラエ）等餘毛之惠良々々爾仕奉乎見之貴佐などあり、書紀に、噓樂とあるをも訓、又雄略卷に、歡喜盈懷（エラギマス）ともあり、今此記に、上なるニはたゞ咲字のみを書るは、和良布と訓つ、さて此には歡喜の字を加へたるは、惠良具と訓べきなり、上なるは俳優のなかしきなるは笑ふ